



JICA青年研修事業 旭川で実施！

大洋州混成／教育（初中等教育2） 実施団体：旭川市国際交流委員会

青年招へい事業を引き継ぐ形で本年度から新たな事業として始まったJICA青年研修事業が、旭川市で実施されました（実施団体：旭川市国際交流委員会）。この事業は途上国の次世代を担う青年に日本で専門分野の研修を受け、自国の発展に役立ててもらおうという事業です。

今回は大洋州7カ国（フィジー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア、ナウル、ツバル、バヌアツ）から16名の教師が旭川を訪れ、日本の教育システムについて学ぶとともに、学校訪問・授業参観、日本人教師との意見交換、教育関連施設の視察、ホームステイ、国際交流イベントへの参加、日本文化体験などを行いました。

学校訪問では、実験・検証を行なう教授法やチームティーチング、習字、特別活動として行われていた校内相撲大会が特に印象深かったようです。訪問した中学校では給食交流後、研修員控室に生徒が大挙して訪問！「もっと話して仲良くなりたい！」と、身振り手振りを交え、積極的に交流する姿が印象的でした。

また、日本人教師との意見交換会では、研修中に持った様々な疑問が解消されると共に、おなじ教師同士、共感するものも多かったようで、日本人教師からも好評を得ました。

そして、自主研修日に実施したホームステイには全研修員が参加！実施前はホストの写真を見てドキドキしたり、ため息をついたりしていましたが、終了後は日本の家庭環境や家族のあり方を目の当たりにした満足感で満ち溢れていました。

彼らは各国教育界の次世代を担うホープ。研修の最後に彼らが作成・発表したアクションプラン（本研修を、どうやって自国の教育分野発展に活かすかをまとめた自己行動指針）が反映され、各国の教育分野が更に発展することを願ってやみません。

（国際協力推進員（旭川） 鳥居）



小学校で講義を受ける大洋州青年研修員たち



あなたはもう体験しましたか？地球のステージ～JICA版in札幌

2007年10月4日（木）開催報告（於 北海道大学情報教育館）

暗転したホール内に響き渡るアメージング・グレース。スクリーンいっぱいに映し出される映像に、心が惹きつけられます。

知る人ぞ知る「地球のステージ」に、このたびJICA版が誕生！札幌では北海道大学の施設をお借りして、「JICA北大連携国際協力セミナー」の特別版として開催しました。

地球のステージとは、1989年から55カ国の国際協力現場を回り活動してきた桑山紀彦医師が、世界の紛争・災害地に出会ったさまざまな人々や出来事をオリジナルの音楽と映像に託して歌い伝える、コンサート形式の講演です。今回は、桑山さんの活動のきっかけとなったエピソードを綴るフィリピン篇～カンボジア篇～ソマリア篇に加え、アフリカのガーナで活躍する、JICAから派遣された専門家やボランティアの方々を桑山さんご自身が取材され、撮影された映像をもとに「国際協力篇」が演奏されました。

国際協力の仕事に就いて、いつのまにか9年目となってしまった自分が忘れていた、初めて「途上国」と呼ばれる国を訪れた時の新鮮な驚きや戸惑い、素直な感想などを、桑山さんが代弁してくれている…そんな錯覚にとられました。

『「固有名詞の出会い」を大事にしますか？』そうみんなに呼びかける桑山さん。特定の「人」や「場所」が自分の中に浮かぶようになって初めて、地球規模の問題や、国際協力について思いを馳せることができるのではないか…そんなメッセージを受け止めた一夜でした。

（JICA札幌 徳田）



地球のステージ～JICA版を熟演する桑山紀彦さん。
今回は特に、国際協力を志す若い人たちにに向けて熱いメッセージが送られました

はりきってます！

渡邊国際協力推進員（函館）着任のごあいさつ

初めまして。国際協力推進員として今年9月に着任いたしました渡邊郁代です。青年海外協力隊17年度1次隊としてルーマニアで2年間、青少年活動隊員として学校で日本語や日本文化を紹介する活動をして参りました。高校時代を過ごした函館の街で、また、協力隊参加以前に働いていた（財）北海道国際交流センター（HIF）でJICA函館デスクとして活動できる幸運と責任を身をもって感じているところです。国際協力について1人でも多くの方に関心を持っていただき、一緒に歩んで行けるような、『国際協力で何が出来るんだろう？国際理解教育について知りたい！』そんな好奇心旺盛な皆様の思いを形にしていくな手伝いをさせて頂きたいと思っています！どうぞ、皆様、よろしくお願い致します！



左が渡邊国際協力推進員。
函館で開催されたイベント「地球まつり」に出演した山田耕平さん（協力隊マラウィOB、中央）と、配属先であるHIFの池田事務局長（右）と一緒に